

文学部史学・文化財学科

史学・文化財学科の取り組み

教授 松森 武嗣

「別府大学教員採用試験対策勉強会」は、顧問教員のアドバイスを受けながらも、「主体性」「連携」「継続性」の基本方針のもとで、中学・高校教員を目指している史学・文化財学科所属の有意な学生が参加し運営している勉強会です。

立ち上げ10年目である平成30年度の活動状況としては、夏休み、冬休みと春休み期間を除いた前・後期を通じて、日本史と世界史を交互で週2回、教科書の單元ごとを授業形式で、メンバー輪番制のもと、前期では日本史は幕末の動乱～日露戦争、世界史は先史の世界～ギリシャ・ローマの古代史を、後期では日本史は江戸時代、世界史は中世ヨーロッパをやり、知識の定着を目指しました。特に、毎回の復習小テストで基礎固めを図り、また評価シートを取り入れることで、授業実践の技能向上に努めました。

ただ、相変わらず参加者が少なくなっていくのが気がかりとなっています。

文学部教職課程

別府市立南小学校学習支援ボランティア

講師 針塚 瑞樹

昨年に引き続き、別府市立南小学校から「サマースクール」の学習支援ボランティアの要請をいただいた。「教育原論」「教育職の研究」を受講している教職課程履修者に学習支援ボランティアを募ったところ、8名からの希望を得て、以下のように小学生の学習支援を行った。

実施期間：平成30年8月29日～31日の3日間

参加者：史学・文化財学科2年 2名

国際言語・文化学科2年 3名

国際経営学科2年 1名

食物栄養学科2年 2名

小学校の先生方からは、別府大学の学生が小学生と積極的にコミュニケーションをとってくれて、児童が交流を楽しんでいたという感謝の言葉をいただいた。私も31日には参加し、教室でプリント学習をする児童の丸つけを行った。間違っている箇所をどのように指摘するのか、正解の場合でもどのように声掛けを行うべきかを考えながら、児童に対応した。学生にとってもさまざまに工夫を凝らしながら支援を行う機会になったと思う。また、学生が児童と親しげにコミュニケーションをする様子を見て、大学生との交流が多くの子どもにとってこれほどまでにうれしいものなのか、と改めて認識をした。今後も地域の学校の行事等への参加協力に可能な限り応じ、大学生が教育現場や児童生徒について学ぶ機会を提供できればと考えている。